

国立大学法人東京医科歯科大学の2022年度における
学長の業務執行の状況についての中間評価

2023年10月24日

東京医科歯科大学学長選考・監察会議

国立大学法人東京医科歯科大学学長選考・監察会議は、「国立大学法人東京医科歯科大学学長選考・監察会議規則」第4条第2項の規定に基づき、田中 雄二郎 東京医科歯科大学学長の業務執行状況について中間評価を行い、以下のとおり評価結果をとりまとめました。

1. 評価結果

学長選考・監察会議では、所信表明に掲げられている事項を重点的に確認し、「2.」の意見に基づき協議した結果、これまでにない指定国立大学法人同士の大学統合に向けた基本合意書の締結を行うとともに、新大学が世界最高水準の大学となり社会課題を発見し解決するためにコアバリューを方針として策定し、国際卓越研究大学の認定に向けて、上記の方針に基づいて申請を行うなど、大学運営に関して大きな成果を達成したことから、学長の業務執行状況は極めて良好であると認められる。なお、今後の大学運営においては、「3.」の事項を踏まえて取り組んでいただきたい。

2. 各委員から出された主な意見

(1) 所信表明に掲げている事項について

【自律と協調の組織への転換】

- 人事改革にあたり、部局人事や各教授の将来計画を見据えられるようになったことは高く評価できる。
- 工学と人間社会に近い領域である医学・歯学のコラボレーションは、工学系を出てかつ医学の知識を持った人材を増やすということに繋がり、大きな発展をさせることから評価できる。

【財政基盤の充実】

- TMDU Innovation Park (TIP) が企業や産業を呼び込み、大きく育てていくことに繋がることから、当該取組は評価できる。
- スタートアップ支援にあたり、意欲的にエコシステムを作ることが計画されており、評価できる。

【外部組織との連携交流の拡大】

- 社会と共に成長するというコンセプトの下、医学と工学の連携を推進するという取組を進めていくことは評価できる。
- 医学と工学の枠を超えたコラボレーションによるアントレプレナーシップの活用により自律と協調及び財政基盤の充実の強化が期待される。

(2) 上記の他、重点的に取り組んだ事項について

- 東京工業大学との大学統合により、自律と協調や財務基盤の充実という観点で強化されることが期待される。
- 東京工業大学との大学統合は、新たな大学の在り方を日本全体に問いかけることとなり、高く評価できる。
- 国際卓越研究大学の申請にあたり、新大学のコアバリューに基づいた計画を策定し、申請したことは、高く評価できる。

3. 今後期待する事項について

- 財政基盤の強化にあたり、資産活用による病院のハード面の強化や外部資金を活用したソフト面の強化の他、国の制度を活用したファンドの形成等により、産学連携の基盤強化をしていくことが重要である。
- 大学統合にあたり、学部学生が教養教育の段階から両大学で学んだり、特定のテーマで集まったりすることが出来るようにすることで、統合に先だった大学間の連携が出来るのではないかな。
- 大学統合にあたり、新大学の理念の確定・浸透は重要であり、スピードをより一層上げて対応を進めていくことが必要ではないかな。
- 各部局で統合に向けた検討を進めるにあたり、統合後の大学全体の部局の見取り図があると、各部局における検討が加速化するのではないかな。
- 土地活用で得られた資金についてはキャンパス整備や人材育成・獲得など成長への投資に向けていただきたい。